

# 【下関市総合教育会議議事録】

## 令和3年度第2回下関市総合教育会議

開催日時	令和3年11月19日（金） 10:00～11:30
開催場所	下関市教育センター 3階 大研修室
出席委員の氏名	前田 晋太郎（市長） 児玉 典彦（教育長） 小田 耕一（教育長職務代理者） 藤井 悦子（教育委員） 吉村 邦彦（教育委員） 佐々木 猛（教育委員）
欠席委員の氏名	欠席なし
委員、関係者及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名	総合政策部長 竹内 徹 教育部長 徳王丸 俊昭 教育部次長 光吉 計志 教育部次長 吉川 弘文 学校教育専門監 木下 満明 教育政策課長 岡本 誠也 学校教育課長 岡田 達生 教育指導監（生徒指導推進室長） 川畑 誠治 教育研修課長 岡 良治 学校支援課 浅野 秀晃 教育政策課長補佐 内田 泰敬 教育政策課主査 倉前 啓介
傍聴人の数	1人

次第（目次）

【開会の宣告】 .....	P 3
【市長挨拶】 .....	P 3
【教育長挨拶】 .....	P 3
【協議・調整事項】	
○「ICT教育の推進（1人1台端末の活用）について」 .....	P 4
【その他】 .....	P 18
【閉会の宣告】 .....	P 20

## 【開会の宣告】

徳王丸俊昭（教育部長）

皆さん、おはようございます。ただいまから、令和3年度第2回下関市総合教育会議を開会いたします。

まず初めに、総合教育会議の主催者であります前田市長に開会のご挨拶をお願いいたします。

## 【市長挨拶】

前田晋太郎（市長）

皆さん、おはようございます。総合教育会議を毎年2回行っているわけですが、この会議の重要性というのは、私も市長になって5年になりますが、日に日に高まっていると感じています。教育委員の皆さんと忌憚のないご意見を交わすことで、本当にダイレクトに学校教育、子供たちに大変影響のある会議であります。引き続き、積極的にご発言をいただいて、今日もよろしくお願いいたします。

今日は、特にGIGAスクール構想をこれまで進めてまいりました。そういったことが必要な時代だといいいながら、最後の後押しになったのは、皆さんご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症のまん延があつて、学校がストップして、でも学校の学びを止めるわけにはいかないということで、自宅でも学習が進められる環境をつくるために必要だ、ということであったと思います。そのうち、コロナが少し落ち着いて、授業を再開することができたのでよかったのですが、ICTも手段の一つとして念頭に置いて、こういったハイテクの機器を使って、子供たちの学習を進めて、能力を伸ばしてあげたいというような気持ちは皆一緒なのだろうと思います。

ただ課題はいろいろとあります。私もよく口にしますが、私の子供が3人いて、3人が同じようにタブレットを使える状況になっていないのです。要は、ICTが得意な先生と、そうではない先生との差が如実に出てしまっていて、それをまだ先生のお尻をたたいて、というような形にはなかなか、その他のお仕事も大変な状況の中では難しいので、それをどうサポートするかということが、教育委員会と連携をして、今年も新しい予算をつけて、支援制度として業者にも入っていただくようにしました。まだまだ足りないところは、来年度予算以降にも対応をしていきたいと考えています。

今日は、皆さんの意見をしっかりといただきながら、一步でも前進できればと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上です。

徳王丸俊昭（教育部長）

ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して、児玉教育長にご挨拶をいただきます。

## 【教育長挨拶】

児玉典彦（教育長）

皆さん、おはようございます。教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染状況も改善してきておりますことから、学校現場でも安堵感が広がっています。しかし、現在の状況は、教職員はもとより、児童・生徒、そして保護者の皆様の忍耐と努力によって得られたものです。安心して手を抜いてしまつては、第6波の大きな波が押し寄せてこないとも限りません。

私は、このコロナ禍の状況で、人と人との結びつきが弱くなってしまったのではないかと心配をしています。一方で、コロナによって必要でないものも明らかになりました。少しずつ、新しい学校の生活様式を定着させることが必要と考えています。感染予防との両立は難しいですが、これまでの経験をもとに、工夫をして参りたいと思っています。

本日の協議・調整事項は、ICT教育の現状を市長と教育委員会とで共有し、現場が抱える問題・課題の把握に努め、せっかく整備した1人1台のタブレット端末等を生きたモノにするため

の方策について協議をして参りたいと思っております。

どうか前田市長におかれましては、ICTの活用を含めた下関の教育の充実に、今後とも格別なご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、本日の私の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

徳王丸俊昭（教育部長）

ありがとうございました。それでは協議・調整事項に入ります。

これより、議事の進行を前田市長にお願いいたします。

**【協議・調整事項】**

○「ICT教育の推進（1人1台端末の活用）について」

前田晋太郎（市長）

それでは、協議・調整事項「ICT教育の推進（1人1台端末の活用）」に入ります。

今年度当初より、小・中学校の児童・生徒1人1台端末が実現しました。今年度の総合教育会議では、5月の第1回で学校でのICT機器の活用状況を動画で紹介してもらいました。今回は、実際に私たちがタブレット端末を使った授業を体験させていただけるということで、大変楽しみにしています。

授業を受けるのは30年ぶりぐらいですか。私たちが、小学校・中学校の時に受けた授業が、いま、どのように変化してきているのか、実際の授業の中から、良い点、課題などを探って、皆さんと協議ができれば、と思っています。

それでは、さっそく1時間目の授業に入ります。よろしくお願いいたします。

伊藤真也（教育研修課主査）

教育研修課の伊藤と申します。本日は、よろしくお願いいたします。では、ICTを使った体験授業を進めて参りたいと思います。本日、初めてタブレット使われる方もいらっしゃると思います。学校では、授業をサポートをする支援員を配置しておりますので、当課の藍澤主査がその役割を務めさせていただき、皆様をしっかりとサポートして参ります。

それでは、前方の電子黒板の方をご覧ください。

では、1時間目の授業ということで、改めまして、皆さん、おはようございます。

（おはようございます。（全員））

今日は、とてもいい天気ですね。一緒に勉強、頑張りましょう。私は、2年前まで小学校の教員をしておりました。これまで数多くの授業をしてきたのですが、本日、このように非常に優秀なクラスを持たせていただくことになり、大変ありがたく思っております。是非よろしくお願いいたします。

それでは、早速授業に入ります。本日は、ICT教育の推進、1人1台端末の活用ということで、皆様に体験をしていただきたいと思います。机上に配付しておりますレジュメに沿って進めさせていただきます。

まずは、既にご存じかと思いますが、GIGAスクール構想のおさらいということで、なぜ1人1台端末が導入されたのか、そういったところを見ていきたいと思います。

そしてそのあと、実際にいま机の上にありますタブレット端末を使って学習体験をしていただきます。

では、まず10分間ほど講義にお付き合いいただきたいと思います。

GIGAスクール構想について、改めて確認をさせていただきます。GIGAスクール構想のきっかけとなったことがありました。それは、日本の、これから訪れる大きな課題です。こちらのグラフをご覧ください。これからの日本の人口の推移を表したグラフです。左側は2020年、

右側が20年後の日本の人口です。これから20年間でおよそ1600万人が減少すると推計されています。

そして、もう一つ見ていただきたいのが、こちらのグラフの太い線で囲んでいる部分です。こちらは64歳までの、いわゆる働き世代を示しています。見ると、この働き世代、労働人口が大きく減少しているということが見て取れると思います。これからの日本に待ち受けている大きな課題が、単に人口が減少するだけではなく、働き手も大きく減少する、という状況です。20年後と言え、いままさに子供たちが学校で学んでおりますが、その子供たちが未来の社会で活躍する時代となっております。こういった日本を改善するためにどうしたらよいか、ということで、提唱されたのが、こちらです。「Society 5.0」という新たな社会の実現です。

私たち人類は、遡ると、狩猟社会から、農耕社会、工業社会、そして現在の情報社会まで進歩して参りました。現在は、皆さんもスマートフォンを持たれていると思いますが、1人1台のスマートフォンを持ち、いつでも繋がり合うことができる、とても便利な社会となっています。ただ、これから20年後の課題をクリアするためには、これだけではまだ不十分だと言われてます。そこで構想として立ち上げられたのが、Society 5.0という社会です。

どんな社会なのかを、国が動画を作っていますので、動画でご紹介をさせていただきます。

#### 〔Society 5.0〕啓発動画視聴

はい、ということで、最後はちょっと甘酸っぱい感じで終わりましたが、これが「Society 5.0」という社会です。つい5年程前で考えたならば、こんな動画を見たらドラえもんを私は想像します。非常に遠い未来の話なのかな、と思っていました。ところが、「Society 5.0」に向けた企業の取組は、すでにどんどん始まっています。例えば、こちら、ユニクロのセルフレジ。もう使われた方もいらっしゃると思います。最近、コンビニにもセルフレジが導入されています。そして無人のお店も現れています。

そして、運転支援システムです。車も自動運転が可能になってきています。都心の方では、オリンピックで自動運転バスも運行されました。

家庭の中では、掃除をロボットがやってくれる、そんな状況になっています。

そういうことで、Society 5.0、最近ではスマートシティ構想とも言われていますが、可能性が広がる社会へと近づいております。

とても便利な世の中ではありますが、ここでもう一つ別の課題が生まれることとなります。

Society 5.0によって、働き手がロボットに置き換えられることとなると、子供たちが将来、選択する職業が大きく変わってくるという状況です。左側が、AIやロボットによって置き換えられるであろうと言われている職業です。見てみると、事務職であったり、単純な作業を伴う職業、そして自動運転による運転手など、こういった職業は、今後20年間でなくなると言われています。昨日、私、ニュースでJRが新幹線を自動運転による営業に向けた試験をしているという話を聞きました。企業の取組は、どんどん進んでいくものと思います。

その反面、ロボット等では置き換えることができない職業もあります。見てみると、カタカナの職業が増えますが、ICTを作るような職業であったり、コミュニケーションが必要な職業であったりします。小学校の教員もどこかにありました。私も将来、安泰だなと思いつつ見ていたのですが、残る職業もあるということです。

では、未来の社会を生きる子供たちに求められる力とは、何なのか、についてですが、やはり対人関係の力は、これからはますます必要であろうと思います。ただ、それに応じてICTのスキルを高めておくとか、情報を活用した課題解決、課題を発見する力、そういった力がいままさに求められているという状況です。私たちは、学校現場において、こういったことを念頭に置いた子供たちへの指導が求められています。

別の課題もあります。日本の学校教育のあり方です。日本の子供たちは、世界で見ても、学校現場でICTを使っていないという数字が報告されています。教科書を使って、ノートと鉛筆さえあれば授業が進められるという状況です。その結果、先進加盟国最下位となっています。でも、日本の子供たちで一つ矛盾しているのが、学校の外では、たくさんICTを使っているというこ

とです。自分のスマートフォン、iPadを使ってゲームやチャットをしている状況です。このままでは、日本の子供たちは学校の外でICTに触れて育ち、そして大人になって、いろいろな課題に直面する、ここに大きな問題が持ち上がったわけです。

そこで提唱されたのが、GIGAスクール構想です。目的は、Society 5.0の未来の時代を生き抜くために、子供たち一人ひとりが最適化された学びができるよう、学校に1人1台端末とWi-Fiネットワークを整備する、これがGIGAスクール構想の目的です。当初は、令和5年度までに段階的に整備することとされていましたが、先程の市長のお話にもありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、急遽、子供たちの学びを保障するために、1年間で一気に整備をした、という状況です。

ということで、GIGAスクール構想のおさらいは以上です。

そして、下関市の整備・導入状況です。これまでに、たくさんの備品等を導入させていただくことができました。充実したICT環境が、学校現場には生まれております。タブレット端末にはカバーが着いています。Wi-Fiネットワークは、非常に高速なものが整備されています。また、タブレット端末を充電することができる保管庫も各教室に整備されています。そして、電子黒板です。子供たちからの視認性が高い大画面のモニターが各教室に導入されています。非常にありがたいと思っております。

ただ、こういったハード面を整備するだけでは、なかなか授業等での活用に結びつかないといった問題もありましたので、ソフト面の導入もさせていただいております。まずは、こちらのロイロノートという学習支援ソフトです。そしてドリル教材です。子供たちは、基本的に紙で漢字や計算のドリルをするのですが、これからは1人1台端末を使った自主学習もできるようになると思います。そして、教科書も、これからどんどんデジタル化が進むものと思われれます。指導者用の教科書は、すでに導入されている状況です。

ということで、私の方から、まずはお話をさせていただきました。実は、2週間前に、ある大学の先生がここで講義をされたのですが、その講義の中で「見たり、聞いたりする内容は、記憶に100点満点中で10点しか残らない」と。つまり、私、一生懸命しゃべりましたが、10分の1しか記憶に残らないんですね。学校の授業も、恐らくそうなのかな、と思います。でも、手や足、身体を動かして体験することは、80点になるそうです。そこで、皆様には、今から目の前の端末を触っていただきまして、子供たちがどのような学びをしているのか、便利なのか、実感をしていただきたいと思っております。

それでは、タブレットをご準備ください。ここからは、先程ご紹介しましたとおり、藍澤がサポートをさせていただきますし、こちらの電子黒板は、皆様のタブレットと同じ画面を表示していますので、ご覧になってください。

それでは、まず最初にしていただきたいのが、端末の起動です。では、ホームボタンを押してください。パスコードは、〇〇〇〇です。電子黒板にお示した画面と同じ状態になったと思います。今、皆様にお配りしておりますのが、市内の小中学校の児童生徒1万8000人に配っておりますものと全く同じモデル、全く同じ設定の端末です。ここで少しご紹介なのですが、iPadは、一般家庭に向けた商品なのですが、学校現場でそのまま使うのは少し安心できないということで、様々な制限を設けさせていただいております。例えば、課金ができない設定となっております。子供たちが幾らお金のマークをタップしても、「課金はできません」と出てきます。それからチャットやメール、通話もお配りしてる端末ではできない設定となっております。あとは設定が変えられないように、アプリの削除ができないとか、アカウントの内容を変えられないとか、支障がないように、そして子供たちが安心して使えるように、様々な制限をかけている状況です。ただ、それだけでは子供たちがやはり安心して使うことは、まだできません。学校現場には、ICT機器を使う際に必要となるルールであったり、あとは情報モラルですね、こういった指導も、各学校において、同時進行で進めていただいております。

それでは、ここからは、主にこの「ロイロノート」を使った学習体験をさせていただきます。こちらのロイロノートの、私の思う大きな特徴は3つあります。まずは、先生がICT機器を使う際に、サポートができるソフトであるということです。直感的に使いますので、苦手な先生にも簡単に使うことができるようになっていきます。そして、これから体験していただきますが、学

びが更に広がる、深まるというツール、あとは1年生でも直感的に、簡単に使うことができます。ということで、皆様、1年生に負けないように、頑張ってくださいと思います。

それでは起動をしていただきます。

ロイロノート・スクールのアプリケーションをタップしてください。

このような画面になったのではないかと思います。こちらが、ロイロノートの基本画面となっております。大きな使い道ですが、画面左側にいろいろなカード機能が備わっております。例えば、このロイロノートの中に、写真を撮ったものを記録したり、それから文章でカードを入力して表現をしたり、あと、インターネットにつないで、自分で調べ学習をしたり、そして、ミニテストやアンケートもすることが可能となっております。それから、下の方にも3つボタンがありますが、お互いに送り合ったり、そういったこともできるようになっております。ただ、一つ一つ、今から触ろうとすると、すごい時間がかかってしまいますので、今日は、まずはですね、練習ということで、このお題に挑戦していただきたいと思います。

今から私、先生機から、皆様の端末に「下関市の名物と言えば…」というお題カードを送らせていただきます。思いつくことを一つだけ書いていただきたいと思います。流れなんですけど、カードが、まずは手元の端末に送られてきます。そしてそのカードに、下関市の名物を書いていただきます。そして、私に最後、提出をしていただきます。これが基本の流れです。ただ、これは練習ですので、実際にどのように操作するのか、お示ししながらやってみようと思います。

ちなみに、今、私、プレゼンをしておりますが、これもすべてロイロノートで作ったものとなっております。それでは、今から私、このカードを皆様に送りたいと思います。

しばらくお待ちください。

それでは、画面上に白いカードが届いたでしょうか。それでは、このカードを私に提出するまで、どのようにしたらよいか、一緒にやってみようと思います。それでは、白いカードを、タッチペンでも指でもいいのですが、ちょっとタップ、タッチしてください。すると、カードが大きくなったと思います。では、ここに下関市の名物を書いていただきたいんですが、画面の上の方に鉛筆マークがございます。鉛筆マークをタッチしてください。するとですね、鉛筆で書き込めるモードになったんですが、いろいろな機能もありまして、上の方の、フニャとした線があるんですが、ここで線の太さを変えることができます。ちょっと、お好みの線の太さにして、使ってくださいね。

それから、今から字を書いていただくのですが、その字の色を変えることができます。で、よし、この設定でいこう、と決めましたら、ここにですね、なんか書いていただきます。

それでは、下関市の名物をですね、一つだけ厳選していただきまして、そのカードの中に、単語でいいですので書いてみてください。それではお願いします。

#### (カードに記載 (全員))

書かれましたでしょうか。実際に今、学校現場でも、このようにタブレットを使ったやりとりをしています。もっと学習課題に近いものになっているのですが、カードを子供たちに送って、担任の先生にこれを返すということをやっています。今までは、紙を配って紙に書かせて、集める、そういったことが端末でできるというイメージです。では、書かれましたら、左上に矢印がございますので、そちらをタップしてください。

では、私、今から担任の端末を使って、ここに出しなさいよ、ということで、締め切りを決めます。すると皆さんの端末の画面上に、「下関市の名物」、今から何分以内に出してね、ということで来たと思います。そこに出していただきたいと思います。なぜか、もう出ているんですけど、すごいですね、早い人がいましたね。出し方、提出の仕方なんですけど、カードを指でつまんでいただきまして、それをそのまま、この提出という先生マークの上に持って行ってください。そして、ペンまたは指を離します。すると、「どこに提出しますか」と求められますので、下関市の名物という場所をタップしてください。これが提出の作業となります。

授業の中で、いろいろな子供たちが表現したことを集めたという状況です。30人、40人でも一斉に集めることができます。

ここで、こういうふうにはですね、担任の先生の手元では、全員分のカードが見れるようになっております。授業ではですね、いきなり見せると子供たちが恥ずかしがったりとかもありますので、基本的に隠すんですが、今日はオープンにさせていただきますね。皆様に出していただいたカードが、今まさに、ここに集まったという状況です。

では、前田市長のカードから見て参りましょう。はい。「関門橋」ということですね。私も毎日使っております。

授業中にですね、電子黒板に映して、「だれだれ君の、こんな考え、いいね」という紹介もできますし、実際に皆さんの端末上に、表示をさせて、友達の考えを、目の前で見ることにもできるんですね。

さあ、次は教育長のカードを見てみましょう。すごいですね。「明太子」ですね。「ふぐ」で来るかと思っていたんですけども。明太子、しかも、赤い文字で書かれているのがいいですね。

担任の先生も評価しながら、子供たちも喜ぶように紹介をすることができます。

あ、面白いのがありました。吉村委員のカード、これ、すごいですね。いいですね。

「ふぐ」じゃない。「ふぐ刺し」ですね。年末に、私も食したいと思います。ありがとうございます。この絵も上手ですね。藤井委員さんの絵ですね。

はい。そのほかにも、クジラであったりとか、ふぐですね。下関市、やっぱり食物が有名なんだなど、こういったことを子供たちから集めると、また面白いのかなと思います。

このように練習をさせていただきましたが、じゃあ次はですね、本当に勉強ということで、実際に、学習をしていただく準備をしております。ちょっと、チャレンジをお願いしたいと思っております。

次に、私が皆さんに送りたいお題は、こちらでございます。今日はですね、まず算数、小学5年生の課題を解いていただきます。これ、ちょうど今、学校現場の小学5年生が学んでいる面積の単元です。どのようにするかというと、今から私、このカードを先程と同じように送らせていただきます。皆さん方は、カードにはですね、このL字型の図形の面積を求めていただきます。

ちなみに小学5年生はですね、正方形の面積とか、長方形、縦×横で面積を求めるという知識は持ち合わせているという状況です。いろいろな面積の求め方を考えてみてください。

そして、一つでき上がりましたら、このカードの下に3つまで準備しています。終わったら、次のカード、次のカードということで、クラスの中で、この図形の面積の求め方、いろいろなアイデアを集めたいと考えておりますので、皆さん、いろいろと考えてみていただきたいと思っております。

まずは、このカードを皆さんに、送りたいと思っております。

画面上に、カードが届いたでしょうか。それではですね、ちょっと私、やってみますね。このカードをタップしていただきまして、鉛筆などを使ってですね、まずは考え方とあるのでですね、図形に補助線などを引いていただいて、こう考えたんだよっていう線とかあると、みんなに伝わりやすいかなと思いますので、例えば、このカードのここをちょっと2つに分けてみようかなとかですね、そんなふうにしてみようかなということで、やってみてください。その下に、今度は計算式を書いて、答えまで出していただきたいと思っております。例えば、 $2 \times 4$ とかですね、この続きを考えて答えを求めてください。それでは皆様、今から少し時間を取りたいと思っておりますので、この面積、いろいろな考え方で、答えを出してください。それでは、お願いいたします。

皆さん、安心してくださいね。今日は、当てて発表させたりはしませんので。もう、安心して進めてください。

(作業中 (全員))

では、途中かもしれませんが、ここで一旦切りたいと思っております。できたところまでで大丈夫です。それでは、先程と同じように、今回は、「算数面積」という提出先を作りましたので、書かれたカードをそちらに提出をお願いします。

非常に直感的に作業ができるようになっておりますので、低学年の児童でも簡単に扱えるようになっております。とても面白いですし、便利なツールだなと思っております。

ということで、今、提出していただいたという状況です。普段はですね、担任の先生は、まず、いきなりはつなげずに、ちょっと手元で見てですね、この子の考え方は面白いな、ということでピックアップしていくんですが、すいません、またちょっとここで全員分をオープンにさせていただきますね。

説明いただいたカードがこちらになります。

ということで、例えば、この勉強、もし、端末がなかったらどうしたか、なんです、私も小学5年生の担任をしたことがありまして、その時に、これよく研究授業で使うんですが、紙にですね、この図形をたくさん準備してですね、それを前日に全員分印刷をして、1人5枚ぐらい配ってですね、で、いろんなアイデアを書かせて、それを集めたり、班の中で紹介させたりする。そして、学びを広げる授業をするんですが、なかなか手間なんですよ。そして、そのあとの紙はどうするのか、ノートにのりで貼ったり、どういうふうに処理をするのか、そこも結構、学校現場の悩みどころなんです、このタブレットがあれば、実際に、すぐにいろいろな考えを集めることができます。

では、一つだけ、ご紹介をさせていただきたいと思います。徳王丸教育部長、失礼します。

部長は、このように線を書き足して、一つの長方形として、あとは中の長方形の面積を引いて答えましたとかですね、子供によってはですね、線を引いて図形を分けたり、あとはですね面白い子供はですね、こんな感じに考える子もいるんですね。子供たちは本当に柔軟で、ちょっと切ってそこにはめてとかですね、テトリスみたいにですね、多様な考えがこの授業で実現します。そして、子供たちはいろいろな考え方を、授業の中で、この端末を使えば、より多くの情報を得ることができる。もちろん、学びが深まりますし、今後ですね、タブレットを使ったら、いろんな課題が解決できるかもしれないという自信にも繋がるのかなと思います。

ありがとうございました。たくさん提出をしていただきました。こういうふうに学習体験ということで、ご紹介でした。

それでは、算数以外にどんな活用方法があるのかを、もう少しご紹介をいたします。

今からですね、このような活用例というものを、皆さんの端末に送りたいと思います。それと併せてご紹介をしたいと思います。届いたカードを大きく広げてください。

では、例えば、算数以外にも、理科の授業ではどうだろうか。低学年がよく生き物観察をするのですが、端末がなかったらですね、実際に学校の中を動いて回って、紙が挟まれたバインダーを持ってですね、見つけた生き物を鉛筆で書いていく、そんな作業よくするんですけども、もしこのタブレットがあったら、こんなことができますね。

先程の、このカードをですね、タップすると、大きくなりますので、触ってみてください。

私、戦場ヶ原公園が大好きで、桜が咲いたら必ず、ここで食べるんですけども、すごく美しい場所ですよ。生き物も、実はたくさんいて、ちょっと幾つか私、写真をはめ込んでおります。一つ一つの写真を、どうぞタップしてみてください。撮った写真は、このようにきちんと保存がされており、カードの中に、どんどんカードを足していく、オリジナルの自分の図鑑のように作ることもできるんですね。

このデータは、クラウドに保存されますので、いつまでもずっと大切に振り返ることができます。例えば理科の授業では、というご紹介でした。

次のページは、音楽ではどのような使い方ができるか、でございます。

例えば、このようなですね、音符を仕込んだカードを全員に送ります。ちょっとカードをタップしてみてください。

これ、どんな授業かというですね、小学3年生の音楽です。よく音符のリズムを学ぶものとして、手拍子したりとかするんですけども。

はい、ちょっとお待ちください。届いてないですか。もしですね、届いてないという方は、こちらに「送る」というボタンがございます。こちらのボタンの中にですね、私が何か送信したものが履歴として残っておりますので、こちらをご使用ください。

次のページに音楽がございますので。ちょっと、ここは自由に触っていただくんですが、例えば、リズムを自由に子供たちに作ってごらん、ということで、音符をですね、こんな風に、好きな順番に並べていきます。

こんなふうですね、この音符でリズムを勉強してみようと、子供が作ったとします。このリズム、私、ちょっと口で言ってみますね。タン・タ・タ・タン・タ・タ・タですよ。

このロイロノートのカードには、録音機能がありまして、カードの中に音を吹き込むことが可能となっております。私、今からですね、皆さん、子供になったつもりで、このタン・タ・タ・タン・タ・タ・タを、手拍子で録音をしたいと思います。

皆様、すみません、お手を拝借ということで、録音をさせていただきます。いきますよ。せーの。

(手拍子 (全員))

素晴らしい。優秀なクラスですね。ありがとうございます。

では、この録音したものを聞いてみましょう。

(録音再生)

ということですね、何が言いたいかというと、こういうふうに自分で作ったリズムを、お互いに録音することもできますし、歌声を録音したり、リコーダーの音を録音したり、スピーチを録音して発表に使ったり、ロイロノートはこんな使い方もできるんですね、とても面白いです。という紹介でした。

そして、次です。今後、体育です。体育は、国も、県も、意外と一押しする、活用して欲しい教科なんですね。どんなふうに活用するかというと、例えば、体育、マット運動をする際には、普通は子供たち、どんどんマット運動の練習をしていくんですが、この端末があると、撮影をすることができます。そして、自分自身の動きを撮影してもらったら、自分自身の姿を見て、改善することも、アドバイスを受けることもできます。

今、こちらのカードの中に、菊川中学校のホームページサイトをはめ込んでおります。では、この菊川中学校をタップしてみてください。このままでは、まだ菊川中というカードのままです。そこで、上の方に虫眼鏡のマークがありますので、虫眼鏡をちゃんと触ってください。

すると、今、この端末は、もうインターネットに繋がりました。下の方に、スライドしていくと、ちょっといろいろ学校を探したんですが、ここだけ見つかったので、古い写真なんですけれども、菊川中学校がマット運動をタブレットを使って進めているホームページの紹介ですね。学校現場で、こんなふうに中学校も使ってますよ、というのが上がっておりました。中学生がですね、お互いのマット運動の様子を撮影して、お互いに見せ合って、より良くフォームを変えていく、そんな授業が菊川中学校では紹介されておりました。

もう一つ、併せて紹介なんです、このロイロノートのいいところのもう一つなんです、例えば、このインターネットの観光名所のホームページを子供たちに紹介したい、そういう時は、先生があらかじめ、例えば、この菊川中学校のように、インターネットに繋がったカードを準備しておけば、子供たちに送れば、みんなそれをすぐに検索せずに見ることができるんですね。そういうように、情報を、どんどん吸収することもできます。自分自身でも調べられます。

それからもう一つ、隣のご紹介でございます。今度はアンケートとか、テストの機能も備わっているご紹介です。こちらのアンケートをタップしてみますと、これはもう回答しなくても大丈夫なんです、実はこちらの研修会アンケート、今年6月にですね、私、下関市の栄養教諭を対象としたICT研修をしたんですね。その時に、2時間ほど力説をさせていただきまして、研修会でアンケートをとりました。結果を見てみたいと思います。

児童生徒や先生がですね、このアンケートに回答すると、自動で集計がされて、自動でグラフ化もされております。見てみるとですね、ICTが好きになった人ということで、アンケートの結果をすぐに表示することができます。

これから使ってみてみたいと思う先生も、このように増えた、というのもグラフにして、すぐに表現することができます。学校現場では、このアンケート機能をどういうふうにするかという、例えば、学習のアンケート、今日の勉強ができましたか、わかりましたか、アンケートとるんで

すね。子供たち、わからなかったら、わからないと答えますね。そういうふう子供たちが自分で訴える力も、これを通して確認することもできますし、苦手なお子さんには個別に対応する、手を差し伸べることもできる。これまではですね、アンケートといえば紙を配ります。鉛筆で丸をさせます。先生が集めます。放課後に集計します。翌日に発表します。これが普通なんです。でも、このアンケート、ICTを使えば、リアルタイムですぐに集計まで出すことができます。とても便利です。学校でも、保護者を対象としたアンケートなどもどんどんデジタル化が進んできている状況です。

ということで、すごい駆け足で紹介しましたが、盛り込み過ぎて申し訳ないです。もう一つ、今度はですね、QRコードを活用して見てもらいたいと思います。なんで理科の教科書を使わないんだろうと思われるかもしれませんが、理科の教科書に付箋をつけております。その付箋の場所に教科書、最近QRコードがついているんですね。1人1台端末を使って、QRコードを読み取る、その体験をしていただきたいと思います。それでは、どのように読み取るかなんですが、どこか付箋の場所、好きなところを開いてみてください。タブレット端末のロイロノートのカメラというボタンがありますので、そちらのカメラをタップしてください。すると、このようにカメラのモードになります。QRコードにこのカメラをかざしてください。すると、QRコードの上に何かしら英語の文字が出てきますが、ここをもう一つの手で、さらにタップしてください。すると、情報が読み込めるようになっていきます。好きなところのQRコードを試してみてください。

今回、理科の教科書をお配りしたんですが、理科はですね、なかなか実験器具の使い方とかが子供にイメージがわきにくいところがあるんですね。それを最近の教科書は、QRコードの先にいろんな動画をはめ込んで、子供たちの理解が深まるように工夫がされています。おそらくですね、この次の採択の教科書には、QRコードがもっと増えるんじゃないかと思っています。

少し時間をとりたいと思いますので、いろいろと試してみてください。

すべての教科の教科書にQRコードが導入されておりまして、子供たち、端末を使ってですね、情報を自分で読み取って、学びを深めることができる、ということが既に実現しています。

どんどん進めて申し訳ございません。次にいきたいと思います。

今度は、デジタルドリル教材を実際に体験していただこうと思っております。それでは皆さん、カメラモード、右下にキャンセルのボタンがあります。または完了をタップしてください。右上に完了というのがあると思います。で、一番最初のこのホーム画面の状態に戻ってください。

そしたらですね、私、事前に皆様のロイロノートの中に、このようなカードを仕込ませていただいております。では、こちらをタップしてください。

それでは、虫眼鏡のタップでスタートです。それとですね、私、一度、今朝、ログインをしてしまったので、一旦、ログアウトをしてください。もうすでに、IDは記入されています。パスワードは〇〇〇〇です。パスワードのところをタップしていただいて、パスワードを入力してください。そして、ログインをタップしてください。

ここまで来たら準備OKです。こちらはですね、東京書籍のタブレットドリルということで、市の方で一括して、子供たちに導入をしている学習教材です。算数と数学だけ入れさせていただいておりまして、お手元、テストアカウントで算数が使えるようになっています。

では早速やってみましょう。この算数を2回タップしてください。すると、目次がずらっと上がって参ります。この中にたくさんのプリントが入ってるんですね。どれか、好きなところを選択して、やってみてください。

そして、目次を選択していただくと、このように、「どのプリントをやりますか」と聞かれます。まずは、確かめプリントを、学習が進んでいる子供は「もっとチャレンジプリント」を、子供たちが自由に選択することができます。

それでは、所要時間10分と表示されていますが、ちょっと2分ぐらいとりたいと思いますので、やってみてください。

このドリル教材を使えばですね、子供たちが、課題が終わったあととか、ちょっとした隙間時間にも復習することができます。また、もし、将来、家に持ち帰ったときには、紙を持って帰るのではなく、このタブレットさえあれば、自主学習をどんどん進めることができます。

最後に、答え合わせということで、お願いします。

(ドリル体験 (全員))

デジタルのいいところは、問題数が、無尽蔵にあるということですね。紙だと限界があるんですが、このタブレットドリル、問題数5万本ということで、果てしない量が入っています。

というような感じですね、子供たちが学校でもタブレットを使った自主的な学びができるように、ソフトウェアを導入をしているというご紹介です。

このAIドリルの良いところは、解説をしてくれたり、それから、間違いがあったならば、それをフォローする問題につなげてくれたり、担任の先生が一人一人に声をかけられないけれども、代わりに、AIがすべて判断して、子供の苦手を判断してフォローしてくれるんですね。こういうソフトが、今、かなり出回ってきています。

一旦、完了をタップしてください。そしてまた、左上の矢印で、もとの状態まで戻しておいてください。申し訳ありません。すごい端折っての説明になってしまいますが、このようにですね、子供たちがタブレットを使った学びもできるということの紹介でした。

ちなみに、このタブレットドリル、担任の先生にもアカウントが割り振られておまして、子供たち一人ひとりが何点だったか、どのくらいの時間学習をしたか、そういったことも把握することができます。つまり、担任の先生が一人ひとりのドリルを見るのではなく、もしかしたら将来は、この端末で、全員の学習状況を把握して、そして難しい子には、生身の個別指導を行う、こういったことにつなげていくことができるんじゃないかなと、期待しております。

それでは最後にですね、私からの紹介なんですが、これからですね、国の方も、デジタル教科書への置き換えをかなり本気で進めようとしております。デジタル教科書の良いところを少しだけご紹介です。

デジタル教科書、このようにアプリで使うことができます。例えば、算数の教科書ですね。デジタル教科書なので、このように拡大表示することもできます。このデジタルの良いところは、動きまでつけられるんですね。実際、子供たち、教科書の図だけを見るのでは、なかなか理解ができないお子さんにとっても、こういうふうに、動作化したものが目の前にずっとですね、この周りの長さなんだな、というのがよくわかるんですね。これが、デジタル教科書のすごい良いところかなと思っております。

その他にもですね、すべてのページがあります。こういうようにグラフがあったり、いろんな活用ができるようになっております。これも、ご紹介でした。

それでは最後に、学校の様子を少しだけご紹介いたします。

こちらは、小学1年生の様子です。1年生が、お互いのスピーチを動画で撮影し合っている様子です。とてもかわいいですね。お互いのスピーチを見せ合いっこして、褒め合ったり、アドバイスをしたりができます。ちなみに、こちら1年生なんですが、スラスラ触るんですね。手つきがすごい子もいます。子供たちは慣れるのも早いんですね。

それから、これは小学3年生ですね。先生が、ロイロノートで、漢字の部首のパーツを組み合わせる、という勉強をしています。これでどんな勉強をしたかという、端末を持って教室を動き回っていますね。それぞれが自分のお気に入りの部首を持って、2人で新たな漢字を見つけていく、という勉強ですね。

それから、こんな学習もありました。これは、小学5年生です。5年生ともなると、手つきがすごく上達してきております。平行四辺形の面積を工夫して求めようという学習です。この子は、あっという間に、自分の考えを表現して、次のページ、次のページと学習を進めていました。そして、今度は、端末を見せ合って説明をしている場合です。自分はこう考えたんだよ、と説明をして、そのあと自分の考えを更に修正したり、そういったことにつなげていました。

電子黒板もですね、やっぱりこれを使って発表すると子供たちも喜びます。

子供たち、1年前には考えられなかったようなICTを活用した世界がどんどん生まれております。そして、中学生も、頑張っております。

こちらはですね、数学の勉強の様子です。子供たちが、グラフの線を表現、考えを書き取って、

タブレットを使いながら、お互いの考えを伝え合ってる、そんな場面でした。

こちらは英語の学習です。英語のカード、ロイロノートのカードの中に、今日学んだ、「which」という単語を使って、自分で英作文を作っています。そして、考えを集めて、紹介し合うといった場面です。今紹介したのも、両方とも初任者の教員による授業です。1年目の先生が、すぐにタブレットを使って、中学生の学びを進めている、という状況です。

さらにレベルが上がると、今度は写真を集めたものを種類別に分類していく、といった作業をタブレットを使って進めています。中学生もタブレットを使って学びを進めています。

ということでですね、あつという間に、駆け足で申し訳なかったんですが、やはり一番伝えなかったのは、これからの子供たちがより良く生きていくために、ICTが必要であるということ、そして下関市で子供たちが活躍するために、ICTを今学校現場で使っているということ、これは学校の先生たちにもですね、研修で強く訴えております。今、目の前の子供たちが将来、困らないようにICTを進めていけたらと思っております。

また、今日、藍澤がICT支援員ということで入りましたが、各学校現場もですね、戸惑って当然です。いきなり環境が変わりましたからね。練習する暇も、ほとんどないようなスパンで入りました。今、手探りで進めているんですが、今日の藍澤のようにですね、各学校にはICT支援ということで、つけさせていただいておりますので、これからますます活用が進んでいくのかなと、今、期待しているところです。まだまだ課題が多い状況ではございますが、今日の体験をもとにですね、また学校の様子も見ていただけたら、と思っています。

どうもありがとうございました。

岡本誠也（教育政策課長）

ありがとうございました。また協議に戻らせてもらいます。最初の配席に戻しますので、しばらくお待ちください。

前田晋太郎（市長）

とても良い体験をさしてもらいましたけども、しっかり使ってもらっていることがよかったなと思ったのと、やっぱり教科書では、動きの面ではですね、円を回転させたようなシーンは非常に印象に残ったんじゃないかなと思います。子供たちが、ああいう映像を見ることで、理解が進むっていうのは当然これ出てくるでしょう。また、動画とかをうまく教科書の中にも、QRコードを絡めながらですね、動きで見せていく、音声で聞かせていく、ということで非常に効率も上がるのかな、というふうに思います。

今日は、ちょっとまず感想を、もう時間があまりないんですけども、感想があればですね、どうぞお聞かせください。

吉村邦彦（教育委員）

非常に素晴らしいなと思いましたが、我々が従来から求めてきた、教科書そのもののフルカラー化もされていて、わかりやすく、見やすくなっていますし、それから、ICTの環境において、学校現場で先生たちは、本当に、手を尽くして授業をされています。

そういった中で、いろんなアプリを使われているんですけど、最大限に使って授業をしている中で、クラスルーム、ロイロノート、ジャムボードとかいろんなものがあるんですけども、なかなかそういったものにも限界があります。それから、無料のアプリにも、やはりもう少しこういった機能があればいいなというのがあります。そこは教育委員会、それから市長部局も含めてですね、再度検討して、必要なものがあれば導入すると、いうふうなことをお願いしたいな、と思います。

前田晋太郎（市長）

はい、ありがとうございます。小田委員、どうぞ。

小田耕一（教育長職務代理者）

予想どおり、タブレットの扱いには戸惑いました。ICT支援員さんにたくさんの支援をいただき、ありがたかったな、と思っています。教材も、こういうデジタル機器を使いながら、こういった展開ができるっていうのは本当素晴らしいなというふうに思いました。やっぱり、それを説明される伊藤主事さん、それから支援される藍澤主事さん、その辺の、やっぱり人の力っていうのが、ここにどれだけ関わっているのか、ということが、やっぱり一番大事になるし、特に初めは、その人たちが手掛かりを与えてくださる、その手だてによって、また取り組んでいこうという自信みたいなものが湧いてくるのかなというふうに思いました。以上です。

前田晋太郎（市長）

まさに、教える方の能力も求められるな、と、非常に今の説明はわかりやすかったですけど、あのように皆さん頑張っていたら、いいですね。はい、どうぞ。

藤井悦子（教育委員）

初めて授業を受けさせていただきまして、本当に楽しいなっていうのを実感いたしました。「タブレットを使っても何が変わるんだろう。実際に手を使って、紙に書いて、という方が身につくのでは」「外に出ていった方がいいし、自分で体験したりしないと自分のものにはならないんじゃないかな」というのを思っていたんですが、実際にこれをやってみますと、外に出なくても、また体験しなくても、QRコードで、動いているのも見えるし、本当に、実際に自分がやってるような、そんな感じがしました。学びが好きな子供に、これを使うとなるんじゃないかなと思いました。

ただ、先生方が、これについていくのは大変だろうなっていうのを思いました。若い先生は、すぐにこういうタブレット、またICTの環境に慣れていかれるのではないかと、思いますが、昔からの教え方をしてこられた先生方にしてみたら、なかなか入るのは難しいのではないかと、思いました。これは、皆さん協力して、ぜひ子供たちに、この楽しいツールをしっかりと使ってもらって、子供たちの学習に活かして行ければいいなと思いました。以上です。

前田晋太郎（市長）

はい、ありがとうございます。次、どうぞ。

佐々木猛（教育委員）

授業、ありがとうございます。私もすごく楽しみながら授業を受けられたな、というのが感想です。どちらかという授業が苦手な人間だったものですから、今日の算数、ちょっとドキドキしながら、最初に小学4年生の教科書を見たときに、私は4年生の授業についていけるんだろうか、とちょっと考えながら、ドキドキしていました。

一番私が苦手だったのが、展開図の単元でした。今日はなかったんですが、3Dの映像を見せてくれて、動きを見せることによって理解ができるようになるんだろうな、というところも含めて、理解度が増してくるんだろうなっていうことを思いました。

先ほどから先生方のご苦労っていうところでもやっぱりあるかとは思いますが、しかしながら、ここはもう何とか踏ん張って、頑張ってやっていただきたい、というふうに思います。

昨日、ちょっと小学校の先生にお伺いしたところ、事前の準備とかも、非常に楽になったと言われてました。働き方改革ではないですけども、もっともっとこれを活用することによって、先生方の時間の有効活用もできるのではないかなというふうに思います。

今日は、どうもありがとうございました。

前田晋太郎（市長）

はい。いろいろありがとうございます。

次に入りますけれども、これ今まさにデジタルということですね。一方で子供たちの学習において、実際に、字を書いたり、その教科書じゃないと学べないことの必要性というものがある

と思います。それを今回はアナログという形で表現しますが、それを混ぜ合わせていけなくちゃいけない。デジタルとアナログの融合だということで、今、教育委員会が、教育部の皆さんが、そこを重要視してるというか、これからも課題としてるわけです。

今日はですね、その点について吉村さんが、デジタルとアナログの融合ということで、事前にレポートをいただいておりますので、ご意見いただきたいと思います。

吉村邦彦（教育委員）

はい。まずは、このレポートにないところから。先日、向洋中学校に研修支援訪問に行ってきました。川畑室長と、今日研修でお世話になった藍澤主事と、ご一緒させていただきました。

道徳の授業だったんですけども、その先生が非常にですね、電子黒板と板書、両方ですね、平行して使われていて、本当にわかりやすい授業をされていました。

道徳という、やはり難しい授業ではあったんですけども、聞いていて本当に素晴らしい内容だったと感動いたしました。

その授業の後に、集合研修もあったんですけども、そこでも、今までだったら模造紙と付箋を使って、発表してたんですけども、どうしてもそれだと、折りたたんで仕舞ってしまったら、それ以降見なくなってしまうという傾向にあると思います。

そこをですね、電子黒板を使って、皆さんのご意見をそれに映してですね、iPad 出力したものを投影してっていう形で、データそのものが、いつまでも残る、というふうなことがありました。その中で、川畑室長ですね、課題として見えてきたものがたくさんあるというご発言をされていましたけども、私もたくさん課題が見えて、そういう中で課題が見えてきたと思います。

ですから、良いところのベストプラクティスと、課題と、そういうところを含めて、多くの学校に並行展開させてもらいたいと思います。それがまず1点。

それからもう1点が、先ほどお話がありましたけれども、これ制度として導入は難しいと思うんですけども、やはり全国的にも、一部の先生を除いて、年齢が幾つとは言えませんが、キャリアが長い先生、どうしてもICTに対して拒絶反応を示される先生もおられると思います。これ、企業でも社会でも、ICTが使えないと社会的に使えないというレッテルが貼られる風潮もあります。その結果、早期退職とか、疾患にもつながる、休職も増えるという事実も世の中では起きてると聞いています。非常にもったいないなっていうふうな気がします。

どうしても、このICTっていうものを強制的でなく、最低限のスキームというのは明確にしていかなければいけないと思うんですけども、どうやったら、その方の経験とか、キャリアを活かせるのか、やはり本人、それから上司の皆さんが、その方としっかり目標設定をして、その先生とか、そういった人物の今までのキャリア、経験、こういったものが、若い世代の先生方の模範になると思います。そういったことを指導したり、子供たちには、その先生ならではの授業、こういったものができると思います。ICTも絶対に必要です。それから、ICTはあくまでも道具であって、人対人というのが学校現場では必要だと思いますので、ここを最大限、両方ともしっかりと活用していくべきではないかなっていうふうに思っております。以上です。

前田晋太郎（市長）

はい。非常に大事なところなんだろうと思っております。

私もICTが苦手な先生に対して頑張ってもらえるようになってほしいという気持ちはあるんですが、これが行き過ぎると、今のような、話に繋がってくるんだろうと思いますし、その辺についてはやっぱり、現場の教育部や先生たちにね、任せたいというふうに思ってますが、ご意見あれば、ぜひ、お願いいたします。難しいところです。どうぞ、佐々木委員。

佐々木猛（教育委員）

そうですね。私も、先生たちに頑張ってもらいたいという気持ちはあるんですけど、もともと苦手な方っていうのは、受け入れる時に、ちょっと受け入れがたいところが正直あるようです。ある先生にもお伺いしたときに、その先生は、中学校の先生だったんですけど、数学の先生だっ

たんですが、授業で、こういうタブレットを使うのが大の苦手とおしゃっていて、なかなか、そういう授業が展開しにくい、しかしながら若い先生はどんどんやっている。ていうところで、その先生の言い方を借りれば、「若い先生は」という言い方をされています。なので、先生の中で、ちょっと線引っていか、何か自分はあるところ、置かれている方っていうのも実際いらっしやるのではないかなというふうに思います。

できることだけで、できる範囲で、使えるような形の努力っていうのも併せて必要になるのかなっていうふうに思うところもあるので、自分の中での線引き、確かにデジタルとアナログの融合っていうのは必要だと思います。しかしながら、先生の良さ、先程、吉村委員が言われた授業の教え方の良さは、若い先生はしっかり学んでいただき、年配の先生方にはICTが得意な先生の分野を少しでも吸収できるような、絶対に線を引くってというようなことは、していただきたいくないという思いがあります。以上です。

前田晋太郎（市長）

これを意欲的にできないけれども、意欲的にやっていきたいと思う先生をどうサポートするかっていうことがまず一つですね。

それから、やっぱり例えば、こういったことを使わなくてもですね、究極論を言うと、もう教科書だけで、めちゃくちゃ教えることが上手い先生だっているわけじゃないですか。そういう先生に出会うことで子供たちが学びが好きになってね、成績が伸びていくっていうことも当然あるわけで。だから、少しずつかなという感じはしておりますし、我々執行部側からすると、さっき言った、そのやりたい、頑張りたいという人たちを支える体制を、予算化していくとかですね、良い情報をこちらに、ご提示するとかですね、そういう形ではないかと思います。

ほかはよろしいですか。

（はい。（全員））

前田晋太郎（市長）

急速に進んだ学校のICT化ですから、当然課題があると考えられます。教育委員会の方から、これからクリアしていかなければならない課題等を説明してもらえますか。

岡良治（教育研修課長）

先ほどの説明の中にもあったんですけども、やはり安全に使っていくというところがまず大きな課題と考えております。「情報モラル」という視点からもですね、例えば、最近の報道等でもありましたけれども、端末を使っただけのチャットでのいじめであるとか、いろいろ、フィルタリングをかけていますけれども、それをICTが堪能な子供たちが解除してしまおうとかですね、そういうところも含めて、情報モラルっていうところを、もちろん学校に最初にもう、ルールってところで通知をして、先程の話のように、指導もしていただいておりますけれども、そのあたりがまず一つ課題であると思います。

実際に使った中でですね、これは先ほどの話は、下関の事例ではないんですけど、実際にあったのは、これは実際に正しく使って、子供が世界遺産をインターネットで、グーグルアースで万里の長城を調べていて、そこでストリートビューを見て、どのような様子っていうのを調べていたときに、いわゆるわいせつ画像がアップされていた、という事例がありました。それで報告いただいて、すぐ教育委員会の方からグーグルの方に連絡して、翌日には削除されたんですけど、最近見ると、またそれが新たな話題になっているというようなこともあり、正しく使ってもそういうふうになってしまうようなこともあります。そういう際には、すぐにその画面を閉じて、先生に相談してくださいっていう指導をしています。ですから、実際にそれを見た子供も、まさにそのとおりに行動してくれました。

そのような状況も含めて、いろいろやはり念頭においておかなければいけない、危険な面もあるということです。あわせて、先程のタブレットドリル等も含めてですね、今度は家庭に持ち帰って活用するっていう際には、その辺がさらに危険性等も拡大してくる、そういった課題等にも

ちゃんと対応していかなければならない、と考えています。

前田晋太郎（市長）

はい。万里の長城の件は、これなかなか難しいのかなと。どこに落ちてるかわかりませんからね。ただ、そのフィルターの話は、それを解読っていうか、解除できる生徒がすごいというよりも、そのセキュリティーが非常に甘過ぎるのではないですか。それは、ありえるんですか、そんなことが。

岡良治（教育研修課長）

報道では、それを解除する方法を、またネットで調べてっていうので、いけるっていうのもありました。

前田晋太郎（市長）

パスワードがネットに載ってるわけじゃないでしょ。

岡良治（教育研修課長）

パスワード自体が漏れたとか、そういうことではないです。フィルタリングの設定を変更する手段を調べて、ということのようです。

前田晋太郎（市長）

そういうのも含めて、パスワードによるセキュリティーがかけられているのではないんですか。

岡良治（教育研修課長）

我々が日頃使用しているスマホやパソコンは、インターネットに自由に入っていけるわけですが、子供たちが学校で使用しているタブレットは、そこに制限をかけて、例えば、アダルトサイトだとか、自殺に関連するサイトなどには、入れないように制限をかけているんですが、その制限を解除してしまうようです。

前田晋太郎（市長）

そんなことが、できるんですか。それをパスワード無しにいけちゃうんですか。

岡良治（教育研修課長）

そのようです。すみません。私も詳しくないので、詳細はわかりませんが。

前田晋太郎（市長）

いや、それはできないようにしましょうよ。できるでしょう。そのようなセキュリティー化することは、できるんだろうと思うんですけど。

伊藤真也（教育研修課主査）

私が知りうる最高の崩し方はですね、iPadの緊急ボタンの長押しとかもあるんですね。そこで完全に初期化するとかですね、もう完全に設定を覆すようなことをする生徒も、でないんですけれども、そういう可能性はあるのかな、と。

前田晋太郎（市長）

仮に、そういうことをした場合には、嚴重におしかりをしていただいた方がいいですね。それしかないですね。

## 【その他】

前田晋太郎（市長）

それではですね、ご意見ありますか。あともう少し、その他も含めて、今のお話も含めて、皆さんから自由意見で、どうぞ。

吉村邦彦（教育委員）

今後の課題となるのが、たぶん持ち帰ったときの環境ですね。まだまだ、家庭にネット環境がないご家庭があったりとかする可能性がありますので、そのあたりは、教育委員会と学校と市の方で、どうするかってことを考えていかなきゃいけないなというふうに思っています。

ICTとは関係ない、少し関係あるんですけども、今回ちょっと学校に行って思ったこと、このレポートにも書きました。2つほど、ちょっと考えていただければと思っております。

一つ目が、クラス編成です。やはり今回、学校訪問をいろいろさせていただいて、40人弱のクラスになると、やはり非常に教室が狭く感じられて、なかなか支援を要する子供に手が行き届かないと感じます。あと、先生たちが使われてるクラスルームとか、それからロイロノートですね、なかなかその数が多すぎて、リアルタイムに先生が確認できないというふうなことも起きています。

やはり、何人が適正なのかというふうなことは議論が必要ですけども、人件費とか人事異動も含めて、適正規模・適正配置じゃないんですけども、学校とか校長先生の方で状況を鑑みて、2クラスにできるようにするべきではないかなというふうに感じました。

あと、感染対策も不十分になってしまいます。子供たちの方としても、こんなに近かったら、ソーシャル・ディスタンスもないよな、みたいな声も出てましたので、ここは検討が必要なのではないかということです。

それから、あともう一つ。これは予算のことで、非常におこがましい、私ごときが口を出せることではないんですけども、教育委員会の範疇として教育文化、歴史、それから文化財とか、こういったものがあります。その中で、やはり年数とともに、だんだん膨大に増えていって、固定費というのが予算として必要になります。そうは言っても、先程から皆さんも、市長も言われていましたけれども、未来を担う子供たちのために、ハード的にもソフト的にも、やはり全国に誇れる、それから、労働人口が減っていく中でも、下関は人口が増えていくと、いうふうな最高の環境で学べるようにしてやりたいなというふうに思っています。

現実に、窓を閉めようとしたら、窓枠ごと落下したというような事象も起きております。安全安心な学校の中で、それはハードの部分ですけども、ソフトも含めて、支援を要する子供たちへの支援員の資格制度とか、あと教育制度、それから絶対人数が足りてないというふうにこの支援については思っています。

市政でやるべき優先順位も、多々あると思います。でも、やはりこの日本、山口県、下関市を担う子供たちです。ぜひ、こういったことも含めて、予算配分とか、それから学校へのご協力をお願いしたいなというふうに思っています。以上です。

前田晋太郎（市長）

はい。ありがとうございます。よろしいですか。はい、佐々木委員。

佐々木猛（教育委員）

課題に関してですが、吉村委員もおっしゃられたように、持ち帰った際のところが、やはり私も一番必要だなというふうに思います。特に使い方という面で、子供たちだけでなく、保護者に対しての使い方というのも、よく理解をしていただかなきゃいけないのかなと思います。

あともう一つ、今日、小学校・中学校でのICTの大切さということを再確認をさせていただいたところではあるんですが、下関市には県内唯一の市町村立の高等学校、下関市立の下関商業高等学校というのがございます。ぜひとも、ここにもICT教育をさらに今まで以上に加速させていく必要っていうのもあると思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

前田晋太郎（市長）

今のご意見をもって終わりにさせていただきたいと思いますが、持ち帰りの件については、これは、そういう有事の際というか、通常は持ち帰ることは想定してないんですよね。想定してないというか、ルール化されてないんですかね。

岡良治（教育研修課長）

現時点では、持ち帰る運用はしておりませんが、持ち帰りに向けてですね、今ごく一部の学校で実証事業という形で、まずやっております。

前田晋太郎（市長）

それは、家で授業する、ということですか。

岡良治（教育研修課長）

いえ、オンラインの授業ではなく、例えば、持ち帰って、先程のロイロノートやAIドリルなどで学習をするであるとか、自主的に調べて、自主学习で行うとか、そういう学習に使うということです。オンラインの授業ではございません。

前田晋太郎（市長）

そういうことを、いま少しずつトライしてるってことですか。

岡良治（教育研修課長）

そうです。

前田晋太郎（市長）

その時に今、懸念されてるようなことをですね、しっかり何か失敗が起きれば、またそれをストックして、しっかり共有を皆さんでしてもらえるといいかなと思います。

最後、吉村委員からいただいたお話、いろいろありましたけれども、本当、私も、この教育について、もう本当に、特に、何ていうか、もう異次元の予算措置をですね、これまで取り組んできたつもりです。異次元という表現は変ですけど、これまでにないぐらいね、特に力を入れてきたつもりです。吉村委員は、特に、ずっと昔、私が市長になる前からお話したんだけど、やっぱり老朽化して、古い、それが古い施設がね、傷んだ箇所が、直接やっぱり命や危険なところっていうのは、それをけがするまでは放っておこうというようなことはないんだろうけれども、結果的にそうなってしまってるようなところは、もう絶対早めに潰してほしいと。これも早くからずっと言っております、大分進んできたかなというふうに思いますが、引き続きですね、そのあとについては、しっかりと対応していきますから。積極的に学校から声を上げていただきたいと、これはもう本当に願っております。

窓の話もありましたけどね。そういうことと、それからソフト面についても、先程のやる気のある先生をサポートする体制、ないし、様々な、今から課題が出てくると思うんで、しっかりと、情報共有をしてですね、こまめに対応していきたいと思っておりますから、皆さんも頑張って、各学校の先生方には、よく声をかけていただきたいと思っております。

一番いけないのは、教育委員会に言っても、なかなか聞いてもらえないし、お金も出してもらえんやろうからって、黙ってる学校が増えていくってことが一番やっぱりいけないことなんで、そこをしっかりと風通しを良くしていただきたいと、これは私からの願いでもあります。よろしく願いいたします。

教育長、最後に、よろしく申し上げます。

児玉典彦（教育長）

市長には、特に子供たちの安全配慮に対して、今、異次元という言葉を使われましたが、これ

まででない程、予算を確保していただき、本当に感謝しています。せっかく環境を整えて、こうやってICT機器も導入しました。先日、私、光市に行って、光市のある中学校で、一番進んでいるという中学校の授業を見たんですけど、やっていることは同じなんですが、電子黒板が下関市のものより二回り程小さいのにびっくりしました。下関市の電子黒板は、こんなに大きいのかと思ったところです。

予算面での配慮、あるいは精神的な支援もしていただき、ありがたく思います。これからもよろしくをお願いします。

前田晋太郎（市長）

まあ、めちゃくちゃ高かったわけじゃないですよ。程々のところで一番大きいサイズのものを選びましたね。いいところを選びましたね、そういう意味では。そういう努力も必要ですね。どこが一番安くて効率がいいかとかね。

そういうことで、少し時間は過ぎましたが、とても中身のある総合教育会議だったと思います。教育委員の皆さんには、それぞれお忙しい中、いつも、こうやって、長時間の会議におつき合いいただきまして、積極的なご意見いただいておりますことに感謝申し上げます。これからも子供たちのために、引き続きお力添えどうぞよろしくお願いします。

それでは、来年度の令和4年度予算をしっかりと対応していきます。教育委員の皆さんも頑張ってください。よろしくお願いします。以上で終わります。

<b>【閉会の宣告】</b>
----------------

徳王丸俊昭（教育部長）

皆さん、大変お疲れ様でした。それでは以上をもちまして、令和3年度 第2回 下関市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

(ありがとうございました)